

五点・箸・筴など多量に出土する。出土遺物は一般の集落跡などとは異なっており、寺院跡に関連するものが多い。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「

・ 「

(2) 「

111×28×22 061
 133×281×3 061

9 関係文献

和歌山県教育委員会

『野田・藤並地区遺跡発掘調査概報』 一九八一年

(渋谷高秀)

和歌山・湯川^{ゆかわ}神社境内遺跡

1 所在地 和歌山県御坊市湯川町小松原四三一

2 調査期間 一九八一年(昭56)七月～九月

3 発掘機関 御坊市遺跡調査会

4 調査担当者 巽 三郎・久貝 健

5 遺跡の種類 居館跡

6 遺跡の年代 鎌倉～戦国時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

本遺跡は、標高六mの微高地に築かれた館跡で、敷地の周囲をめぐる幅約七～一mの堀を含めて東西約一三〇m、南北一八〇mの規模を有する。室町時代に有田・日高・牟婁郡一帯に勢力を有し、天正三年(一五八五年)豊臣秀吉の南征軍によって滅ぼされた豪族湯川氏が構えた館である。現在湯川神社が祀られている館の南東隅で堀跡の一部が残存



(御坊)

東隅で堀跡の一部が残存

しているのみで、その大部分は学校校庭となっている。

今回、御坊商工高等学校の校舎改築に伴い館の南西隅約五〇〇㎡の範囲を発掘調査し、館をめぐる西・南側の堀跡や池跡敷石などを検出した。また遺物として瓦、土師器小皿、瓦器碗、中国製青磁・染付、銅銭二点、鉄釘二点、根来塗漆器碗二点（台底に「上」の朱字有）、木簡一点、箸二点などが出土した。

8 木簡の积文・内容

×吉田上□□分

(205)×22×2 019

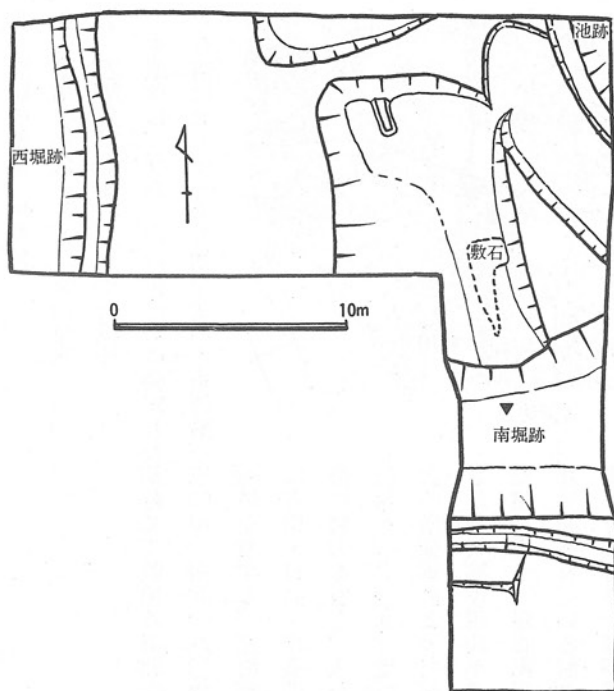
南堀内から検出したこの木簡は館の北方に位置する御坊市湯川町吉田の地より、もたらされた貢納物に付けられていた荷札と考えられる。

9 関係文献

御坊市遺跡調査会 『湯川氏館跡発掘調査現地説明会資料』

一九八二年

(久貝 健)



湯川神社境内遺跡（湯川氏館跡）遺構配置図